

# 2019年12月13日 第3318回例会

於： 横須賀商工会議所



<点鐘・開会> 12:30 田邊 会長

<斉唱> 「手に手つないで」

<ビジター紹介> \*福嶋 義信 様 (横須賀北ロータリークラブ)

<会長報告> \*第6回理事役員会報告

・年間プログラム：6月12日(金) 第二海堡見学について検討

\*ガバナー事務所より

・第3回ローターアクト委員会開催のご案内について

2020年1月25日(土) 17:30~18:30

於：第一相澤ビル6階「会議室」

<委員長報告> \*中山会員より新会員の集い 報告

<幹事報告> \*ガバナー月信 No. 6

\*例会終了後VTT特別委員会開催 (例会場)

<出席報告> \*出席委員会 猿丸副委員長より12月13日の出席報告

会員数	出席対象者数	出席数	欠席数	メイクアップ数	出席率
116名	98名	62名	37名	4名	65.66%

## <ニコニコ報告>

・福嶋 義信 様 (横須賀北RC) いつもお世話になります。

・田邊、渡邊、齋藤 眞、長尾、江沢、吉田、徳永、  
鈴木 隼、勝間、福西、小佐野、北村、山下、宮島 各会員

横須賀北RC 福嶋義信様、本日はようこそお越し下さいました。どうぞ例会をお楽しみ下さい。

・三 役 小山美智恵会員、根田拓哉会員、本日の卓話宜しくお願ひします。

・北村、齋藤 眞、八巻、田中、木村、畑、松本 剛、長尾、高橋 倫、Enora、  
鈴木 豊、岡田、小平、久保田、長坂、松本 剛、小山 隼、中山、澤田、山下、  
角井、吉田、勝間、上林、谷、齋藤 倫、土田、杵 渕、中村 隼、中村 剛、  
八木、福西、加賀本、飯塚、猿丸、勝見、物井、前田、前川 各会員

小山美智恵会員、根田会員、本日の卓話宜しくお願ひ致します。どんなお話が聞けるのかな？ ワクワク、ワクワク。

・根田、小山 剛 両会員 本日卓話をさせていただきます。拙い話ではございますが宜しくお願ひします。

・丸山 会員 春遠からじ。

・飯塚 会員 2019年会議所301研修室、ありがとう。2020年もよろしく。

<新会員卓話 1>

「こやまみちえのモト」

小 山 美智恵 会員

皆様こんにちは。今年4月に入会させていただきました小山美智恵です。本日は「こやまみちえのモト」ということで、どのように私が形成されているのか、簡単にお話させていただきたいと思っております。

私は、「Archi-JAM Workshop」という事務所で、建築設計のお仕事をしております。最初に私の生い立ちと、次に今取り組んでいることとして、万代会館との関わりや「みんなでつくる山の家」という谷戸再生P Jの活動などについてお話をさせていただきたいと思っております。

まず、生い立ちについてです。私は、高校卒業まで札幌で過ごしました。中学生の頃は、「不良少女と呼ばれて」とか「積み木くずし」のようなドラマが流行した直後でしたので、女子は長いスカート、男子はリーゼントのような中で過ごしました。生活指導の先生は、前髪の長さやスカートの丈を測るための物差しを持って学校内を歩いているような中学でしたが、高校は私服で自由な校風の学校でした。「自由 自立 叡智 創造」という校訓で、「やることはやる やるときはやる やれるだけやる」という精神で3年間を過ごし、今も私の根本はこの言葉にあるように思います。進路を考える中で、私は母が洗剤などの影響でひどい皮膚のひび割れに悩まされていたことをきっかけに、環境問題に興味を持ち、また、白衣を着て試験管を振る研究職に憧れ、物理化学の理系コースに進みました。ところが、化学があまり得意ではないという根本的な壁にぶち当たり、環境系のある大学の建築学科に進みました。同時にキッチンや住宅内の動線に疑問を持ち、もう少し女性目線で暮らしを考えられるのではないかとも思い始めていました。かなり個性的な人が多い学校で、高校の友人は今でも大切な仲間です。大学で木造住宅を学ぶ時間が少なかったせいか、学生時代は今とは違い、近未来像に出てくるようなこのような建物を見てカッコいいなと思っていました。スクリーンに写っている画像のうち、左側はアンビルドアーキテクトと言われる机上の建築家レベウスウッズのスケッチで、右側はパリのポンピドゥーセンターです。

大学3年生になる頃、まだ自分の進む道を見つけられずいた私は、1年間の休学をして、バンクーバーに留学をすることにしました。当時、後期と次の前期という1年間の休学は、大学の留学に対する体制が整っておらず、事前に確認を取っていたにも関わらず、通年科目を落とす結果になってしまいました。元々英語が得意なわけではなかったので、カナダで建築を学ぶには至らず、自分を見直す時間だったように思います。日本を離れ、友人と離れ、建築を離れてみて、この先ずっと建築を仕事としてやっていこうと思えたときでした。建築は、デザインとしてのシェイプだけではなく、コンセプトや想い、文化や時代背景との関わりが大きいと思います。そういう混沌とした気持ちを抱えながら、卒業論文は当時好きだった村上春樹の影響を受けて「ユートピア論考」という理想の都市のあり方をテーマとしました。

色々な意味でバランスが大事だなと感じ、設計から施工まで関わることができるゼネコンの設計部に就職することにしましたが、入社してみるとどうしても人が欲しいという部署があったそうで、施工管理課という、現場着工時の安全書類や仮設計画をまとめる仕事に携わることになりました。バブルもはじけ、女子の総合職はとらないという時代でしたので、私は一般職での採用で、同期の男子とは全く違う待遇でした。実務経験2年を過ぎた3年目に一級建築士の試験を受けたのですが、そういう悔しさの中におかげで絶対に合格してやろうという思いが強く、なんとか資格を取り、設計部に異動することができました。その後、会社を退職し、建築に関する様々なことに取り組むという意味を込めて「Archi-JAM Workshop」という名前で設計事務所を設立しましたが、まだまだ以前お世話になった方々のお手伝いで図面を描いたりしていました。

そんな折に藤沢にある旧モーガン邸の親子ワークショップを見つけて申し込んだのですが、不審火による火災でほぼ焼失してしまい、直前に中止となりました。このことがきっかけでそのワークショップを主催する神奈川県建築士会の子どもの生活環境部会に入ることになりました。山崎小学校の総合学習で学区内の



まちづくりワークショップを行いました。子ども部会に入ったことで、横浜山手の洋館や古民家と言われるような歴史的建造物に興味を持つようになり、また今貴重な建物がどんどん失われていることにも気付かされました。畳や大黒柱、縁側など普通だと思っていた日本家屋を知らない子どもも多くいて、「おばあちゃんのおうちみたいな家だよ」という説明をしても、そのおばあちゃんもマンションに住んでいたりする時代です。便利さや快適さはとても大切な要素ですが、失ってはいけない文化もたくさんあり、大切に長く使うことを知ってほしいなという気持ちが強くなりました。

歴史的建造物の知識に乏しかったので、数年前に60単位の授業や演習を受講して、神奈川県「ヘリテージマネージャー」という邸園（歴史的建造物）保全活用推進員養成講座を修了しました。その後、その講座で知り合った仲間と「team1010（せんとう）」というグループで二宮にある肥料屋さんであった洋館付和館の池田國次郎邸の調査をさせていただき、報告書を発行しました。お宅は、ガラスのうさぎで知られる機銃掃射による空襲の日、実際に中で犠牲者が出た建物で、調査中に建具から弾が見つかりました。すでに取り壊しが決まっていたのですが、その直前にたまたま出会い、記録だけでも残せたので持ち主の方も喜んでくださいました。ヘリテージマネージャーの演習に使わせていただいた箱根の底倉の「湯函嶺」という建物は、そのご縁で後日、team1010の仲間が改修工事をさせていただき、貸し切り露天風呂として先日オープンしております。富士屋ホテルと同じ棟梁が診療所として建てたものだそうです。

次に、私のライフワークの一つとして今関わっている津久井浜の茅葺民家である万代会館についてお話させていただきます。万代会館との関わりは、2013年に建築士会のスクランブル調査隊という部会に調査の依頼があり、私も参加したことがきっかけでした。万代会館は、昭和初期に経済界で活躍した万代順四郎さんという方が奥様の療養のために購入した別荘でした。万代さんは米山梅吉さんにもお世話になられており、母校の青山学院大学に奨学金制度を作られています。その後、万代会館はソニーの株券と共に市に遺贈されました。ところが、2014年に、横須賀市の施設配置適正化計画案により、10年以内に廃止する建物にリストアップされました。それを知って、私は、川尻町内会で行われた出前トークに参加し、陳情やパブリックコメントなどを出した中で文化財にすべきという提案もしましたが、一笑されてしまいました。万代会館のサンルームから眺めるお庭の景色はどこからもきれいでとても気持ちが落ち着く建物です。廊下や照明や障子の雰囲気にも趣があります。そのような動きの中で万代会館に関する活動をしている団体や地元町内会で構成する万代会館保存活用推進協議会を立ち上げ、市長への要望書を出したことをきっかけに、存続に方向転換され、今年9月に市の重要文化財に指定されました。現在、お庭の見学はできますが、安全性の確保ができていないという理由で、建物内の立ち入りは禁止の状態です。活用計画もほとんど進んでない状態で、どんどん劣化が進むのも懸念され、実はまだまだ予算を許さない状態です。なんでも古い建物を残すべきとは思いませんが、文化と伝統の継承という意味で価値のあるものは保存活用すべきと考えています。竹の整理、建具等の調整、樋の掃除、茅の補修をしています。

次に谷戸再生PJを紹介させていただきます。横須賀出身ではない私ですが、住み着いてしまった理由の一つに谷戸の魅力があります。仲間と一緒に古い建物を借りて楽しく何かやってみようという活動しております。メンバーは、建築関係の仲間が多いですが、市の職員などもおります。一般的な不動産価値だけで判断できない魅力をそれぞれの人の価値観で活用できるものもあると思っています。ボロボロだった家も床を張り、壁を塗り替えるとこんなにきれいになりました。私たちは、この建物を「みんなでつくる山の家」と名付けています。車は入らず、200段ほど階段を上ったところにある汐入町1丁目の谷戸の古い家で、数年前に学生向けのシェアハウスに横須賀市が補助金を出していたときに、オーナーがぼろぼろすぎて諦めた方の建物を借りています。この写真は、壁をはがして珪藻土を塗っているところです。最初は、床も抜けそうで、靴のまま上がるような建物でしたが、床板を張り、壁をはがして塗り替え、屋根を修理し、キッチンを改修してお湯が出るようになり、土間も打ち、今度は天井をはがそうか、囲炉裏を創ろうかと相談しています。

お披露目の意味で町内の方々をお招きしたり、敬老の日のイベントで寄席を催したりしています。神奈川県立保健福祉大学の料理部の方にもご協力いただきました。その後、ジャズライブを行ったときにはメディアも多くいらしてくださいました。そして、二胡のライブや尺八演奏会、高校生バンドによるジャズライブも行いました。地図と山を家のマークをデザインした手ぬぐいも作ってみました。町内会の人たちをお呼びしたり、お祭りに出させていただいたり、イベントをしたりコミュニティの場として少しずつ馴染んでいくような気がします。月に一度定例を行っていますが、最初は建物内に座ることもできなかったのが近

くのサポートセンターで行っていました。床を張って椅子とテーブルを入れることができるようになり、砂壁をとって珪藻土を塗ったことで、空気がきれいになったのを実感し、キッチンができたことで、定例後、居酒屋に行っていたのが、そのまま食べたり、飲んだりできるようになるという居心地良さを段階的に実感してきました。このことで、建築に携わる者として、生活者として、改めて根本を考え直すことができたように思います。

本日はこのような私の他愛のないお話に貴重なお時間を頂戴いたしましてありがとうございます。こんな私ですが、今後ともどうぞよろしく願いいたします。ご清聴ありがとうございました。

## <新会員卓話 2>

### 「国の制度をかしこく活用！」 コツコツ始める「iDeCo」について

根 田 拓 哉 会 員

皆さんこんにちは。みずほ銀行の根田です。小山さんがきっちり15分でお話されたので、当初より少し多めの残された時間でお話をさせて頂ければと思っております。

私の卓話は、当初2月の予定でしたが、渡邊幹事から12月に早まると連絡を頂き、早く準備をしなければと思っていたのですが、結局、昨晚資料が出来た次第です。前任の増田が「宝くじ」の話と言う「みずほの鉄板ネタ」をご披露したので、皆さんのご興味がどこにあるのか思案しておりましたが、ちょうど、前回の鷲尾会員の卓話のニコニココメントに「12月は懐も寒くなる時期なのでお得な話を」と言うことでしたので、本日は、日経新聞にも掲載のあった個人型確定拠出年金、「iDeCo」についてお話をさせて頂きます。

まず簡単に自己紹介をさせて頂きます。妻・息子・娘の4人家族、自宅は新浦安にありますが、ちょっと遠いので、今はみずほ銀行藤沢支店の上の階の社宅に平日単身赴任をしています。そのため、藤沢支店、横須賀支店を往復する毎日です。昭和51年に辻堂で生まれまして、3歳で父親の仕事の関係でシンガポールに行きました。見ての通り、アジア系の顔でしたので、母は、「貴方の husband はインド人か」と良く聞かれたそうです。色々あって6歳の頃に日本に戻り、小学校は電車で町田市にある玉川学園に行きました。そのまま大学まで行くものと思っていたのですが、6年生の時に父がなくなり、地元の公立中学に進学しました。高校は、湘南高校に落ちて鎌倉学園でお世話になりました。当初バスケ部に入ったのですが、ここでも色々あって辞めて、応援団に入ることになりました。3年生の時にはベスト8まで勝ち進み、私はアサヒグラフにも右の写真が掲載され、大変良い思い出になっております。大学は医者になりたかったのですが、結局、中央大学の理工学部へ進学しました。在学中は、イベント系のサークルを作り、大変楽しい日々でしたが、余り勉強していなかったため卒論は大変でした。

私は理系だったのですが、自分の性格上、研究職は馴染まないと思い、縁のあった当時の富士銀行に入ります。最初、淡路町の神田支店に入行して、3年後に日本橋高島屋の隣の日本橋中央支店に異動し、その後、みずほコーポレート銀行に転籍しました。浜松では自動車メーカーを担当し、次の営業第17部ではお台場のテレビ局を担当しました。また、銀座中央支店では宅配便の会社を担当していました。そして、この4月に横須賀支店長を拝命して、5月から横須賀ロータリークラブでお世話になっております。趣味ですが、体を動かすのが好きで、最近では梁井さんや中村さんと同じようにフルマラソンに挑戦しました。せっかくな



ので毎年1～2回はフルマラソンに挑戦できたら良いなと思っております。特技は、エール、フレーフレーと言うやつです。銀行内の歓送迎会などでやっていましたが、この1年でようやくやらなくてすむようになりました。法人営業中心のキャリアでしたので、目下、リテール営業を勉強している途上であり、ファイナンシャルプランナー取得に向けて、勉強を始めているところです。

勉強する中で、私もメリットを感じて始めたのが、冒頭申し上げた「iDeCo」です。最近、「人生100年時代」、「2000万円不足問題」などが話題になりましたが、何から始めたら良いかわからないとの声を聞きます。「iDeCo」は、申込年齢が60歳未満との加入条件があるので、ここにいる全ての方々にお申込みは頂けないのですが、是非、会社の従業員やご自分のご子息、仕事仲間・同僚を思い浮かべて話を聞いていただければと思います。

「iDeCo」とは、老後のためにお金を積み立てて、自分で選んだ商品で運用した後、その運用成果を原則60歳以降に受け取る制度です。また、次のページでご説明しますが、3つの税制上のメリットを受けられます。まず掛金ですが、月々最低5,000円から、自分で決めた金額で積み立てることができます。掛金の上限額はお勤めの状況等により異なります。途中で積立を止めることもできます。次に運用です。預金や投資信託等から自分で商品を選んで運用することができます。最後に受け取りです。受け取り方は「年金」または「一時金」から選択できます。半分は一時金で受け取り、残りは年金で分けて受け取ることも可能です。次に加入できる方ですが、冒頭申し上げた通り、60歳以上の方はお申込み頂けません。今、厚生労働省のほうで、加入年齢を65歳未満にするように進めているようです。その他の要件として、日本に住んでいること、国民年金を払っていること、企業年金特に確定拠出年金に加入していないことがあります。要件に複雑な部分がありますので、企業年金特に確定拠出年金に加入している方は、自社の人事部・総務部に加入可否・上限額をご確認頂くのが手取り早いです。加入対象者は6700万人と言われる中、まだ135万人しか加入していないようです。

なお、「iDeCo」は老後のための資産形成の制度なので、原則60歳まで引き出すことはできません。しかし、60歳まで引き出せないということは、裏を返せば60歳まで鍵のかかった口座で着実に資産形成ができるということでもあります。皆さまも積み立てては解約、積み立てては解約を繰り返したご経験もおありになるのではないのでしょうか。

「iDeCo」を活用するメリットとして、3つの税制優遇があります。メリットの1つ目は、「掛金は全額所得控除できる」ことです。年末調整や確定申告で「iDeCo」の掛金の全額を課税対象の所得から控除できるので、結果として所得税・住民税の負担が軽くなります。具体的な金額は収入の状況等により異なりますが、例えば、年収400万円の方が、毎月1万円ずつ、1年間で12万円積み立てた場合、所得税は年間6,000円、住民税は年間12,000円の軽減が見込めます。所得税は年末調整・確定申告で還付されて、住民税は翌年分の税金が軽減されます。12万円を「iDeCo」で積み立てたことで、年間18,000円お手元に残るお金が増えることとなります。2つ目に、「利息・運用益は非課税」です。通常、利息や運用益には20.315%の税金がかかりますが、「iDeCo」では非課税なので効率的に資産を増やすことができます。3つ目に、「受け取る際も一定金額まで税の優遇措置がある」ことです。一時金で受け取る場合は退職所得控除、年金で受け取る場合には公的年金等控除が適用され、一定金額まで税金がかかりません。ただし、口座開設に数千円、口座維持に月数百円の手数料がかかることも付け加えておきます。

もう少し詳しくお話をします。一例として、30歳の会社員の方が、「iDeCo」で毎月12,000円、年間144,000円を積み立てた場合ですが、この方は60歳までの30年間で、合計432万円を積み立てることができますが、これを年3%の利回りで運用できたとすると、運用益で約267万円増え、合計約699万円の資産形成をすることができます。通常の課税口座であれば利益に対して課税されるので、ここから約53万円の税金を支払うこととなりますが、「iDeCo」は非課税なので約699万円全額が手元に残ります。さらに、掛金が全額所得控除になることによる所得税・住民税の減税額は、30年間合計で約65万円になります。一番右に、同じ金額を積立定期預金で積み立てた場合のシミュレーションも載せていますが、今の金利水準ではほとんど増えないので、「iDeCo」で資産形成した場合と比べると約331万円もの差になります。「iDeCo」のメリットを感じて頂けたでしょうか。

では何故、「iDeCo」のような優遇策を国が導入しているのでしょうか。これが世に言う2000万円不足問題で、ケースバイケースなので一概には何とも言えませんが、年金だけでは人生100年時代を生き抜くことはできないと言うことです。統計によると、平均的な夫婦2人の老後世帯の1か月の生活費は約264,

000円です。一方で、公的年金等からの収入は約209,000円です。つまり、差額の毎月約55,000円は、ご自身の貯蓄等で補っていくことになります。この月々55,000円の不足額を余命30年とすると1,980万円、約2,000万円となるのです。ゆとりある生活をするための生活費は36万円と言われており、その場合は約5,500万円不足すると言われていました。

では、無理なくお金をためるためにはどうしたら良いのでしょうか。ポイントは4つあると思います。まず、「①早く始めて、時間を味方につけること」についてです。例えば、65歳までに1,000万円を貯める場合、積み立てを始める年齢ごとの1か月あたりの積立金額を比べてみましょう。50歳から積み立てる場合は、積立期間が15年しかないので毎月56,000円の積み立てが必要ですが、40歳から積み立てる場合は、積立期間が25年あるので毎月33,000円の積み立てで達成できます。さらに、30歳から積み立てる場合は、毎月24,000円です。このように、早く積み立てを始めるほうが、1か月あたりのあたりの積立金額は少額で済み、無理なく資産形成を行うことができます。

次に、「②長期で運用すること」についてです。年間40万円を積み立て、25年間複利で運用した場合の利回りごとの運用資産額をシミュレーションしてみます。なお、複利とは、1年ごとに元本に対する利息を受け取ってしまうのではなく、元本に利息を上乗せして運用し続けていくことです。例えば、今の積立定期預金の金利と同じ、年0.01%の利回りで積み立てた場合、積立元本としては、40万円×25年間=1,000万円貯めることができます。しかし、運用ではほとんど増えないので、25年後の資産額は約1,001万円です。一方、これを年1%の利回りで運用できたとすると、25年後の資産額は約1,130万円になります。さらに、年3%で運用すると約1,458万円、年5%で運用すると約1,909万円になります。積立金額が同じでも、長い時間をかけて運用してお金にも働いてもらうことで、大きな差がつかます。

さらに、「③自動積立の仕組みを活用すること」についてです。「貯めなきゃいけないとは思っているけど、貯蓄に回すお金なんてない」とお考えの人にどうやって貯蓄をしているか聞くと、ページ左側の図のように、受け取ったお給料から生活費を支払って、余った分を貯蓄しているという方が多いです。お金をうまく貯めるためには、左側の図のように「余った分を貯蓄」ではなく、右側の図のように、「貯める分は先に貯蓄し、余った分で生活する」仕組みに切り替えないとなかなか難しいことを私の実体験に基づいてお伝えしたいと思います。最初は「生活費が減ってしまってちょっと苦しい」と感じるかもしれませんが、使えるお金はこれだけしかないと思えば、意外と慣れてそれで生活できるものです。

最後に、「④国の制度を活用すること」についてです。「税の優遇措置」というと難しく聞こえるかもしれませんが、制度を利用して税金が戻ってきたり、制度を利用することで、本来利益に対してかかる税金がかからなくなったりすることです。国が資産形成を応援する仕組みとして、先ほどご説明した「iDeCo」のほかにも色々な制度・商品があります。「iDeCo」は、掛金等に応じて「税金が還付される」特徴と利益に「税金がかからない」特徴の両方の特徴をもつ制度です。つみたてNISAは利益に「税金がかからない」制度、生命保険は支払った保険料に応じて「税金が還付される」特徴をもつ商品です。「iDeCo」に関わらずもっと詳しい話を！と言うことであれば…ロータリーの仲間である金融機関支店長・支社長までご用命下さい。ご清聴ありがとうございました。

<閉会・点鐘> 13:30 田邊 会長

週報担当 二瓶 浄 幸